

2014年3月期 第1四半期 決算説明資料

2013年8月5日



スパークス・グループ株式会社
<http://www.sparx.jp/>



2014年3月期 第1四半期の業績



2014年3月期 第1四半期決算 総括

「3つの歯車」が噛み合い、明確な業績回復を達成

- ①過去数年間に亘るコスト削減により、既に損益分岐点は十分に低下
- ②実物資産への投資ビジネス(Real Asset Investment)が収益化に貢献
- ③中核事業たる日本株式運用ビジネス(Equity Investment)の回復

- ・ 営業収益は、残高報酬の増加、成功報酬の実現等により、**大幅増**。

(18.01億円、前年同期:9.24億円、前年度Q4 :9.85億円)

- ・ のれん償却後で営業利益を計上(4年ぶり)。

(3.06億円、前年同期:▲1.98億円、前年度Q4 :▲2.63億円)

⇒ (簡易)営業キャッシュフローも大幅増(+6.04億円、前年同期:+0.77億円、前年度Q4 :+0.30億円)

- ・ 純利益を計上(13四半期ぶり)。

(2.29億円、前年同期:▲14.37億円、前年度Q4 :▲2.34億円)

⇒ 現時点において、当年度に見込まれる特別損失項目はない。

(注1) 「(簡易)営業キャッシュフロー」は、簡便的に「営業利益」に「のれん償却額」を足し戻して算出している。



2014年3月期 第1四半期決算(P/L)(1)

▶運用資産(AUM):

- ・日本市場の上昇が大きく寄与し、グループ全体の運用資産残高は前年同期比では大幅に増加した。一方、第1四半期には、投資家の一部には利益確定のため解約を先行させる動きもあり、韓国市場の低迷も影響し、前年度末比では微減となった。

四半期末AUM : 6,622億円(前年同期:4,694億円、41.1%増)

(<ご参考>前年度第4四半期末 6,693億円、1.1%減)

四半期平均AUM : 6,763億円(前年同期:4,799億円、40.9%増)

(<ご参考>前年度第4四半期平均 6,232億円、8.5%増)

- ・環境・クリーンテック／不動産／再生可能エネルギーなど、新たな投資戦略に係るビジネスは着実に拡大し、運用資産残高の増加が継続。

環境・クリーンテック投資戦略 : 552億円(2013/3末)⇒688億円(2013/6末)(24.2%増)

不動産投資戦略 : 214億円(2013/3末)⇒304億円(2013/6末)(41.9%増)

再生可能エネルギー投資戦略 : 59億円(2013/3末)⇒ 86億円(2013/6末)(44.7%増)

(注1) 「四半期平均AUM」は、当該四半期の各月末AUM合計を、3で除して算出している(3か月平均)。



2014年3月期 第1四半期決算(P/L)(2)

▶営業収入:

- ・残高報酬の回復に加え、好調な運用成績が成功報酬を産み、大幅に拡大。

残高報酬 : 10.49億円 (前期同期: 7.67億円) (＜ご参考＞前年度第4四半期3か月: 8.71億円)

成功報酬 : 4.62億円 (前年同期: 0.002億円) (＜ご参考＞前年度第4四半期3か月: 0.05億円)

その他収益 : 2.88億円 (前年同期: 1.56億円) (＜ご参考＞前年度第4四半期3か月: 1.07億円)

営業収入計 : 18.01億円 (前年同期: 9.24億円) (＜ご参考＞前年度第4四半期3か月: 9.85億円)

▶営業費用・一般管理費:

- ・収入増加に連動する支払手数料及び利益に連動する賞与引当が増加するも、慎重なコストコントロールにより経常的経費は微増に止まる。

経常的経費 : 7.19億円 (前年同期: 7.14億円、0.7%増)

➡ (簡易)営業CF : 6.04億円 (前年同期: 0.77億円、681.3%増)

のれん償却 : 2.98億円 (前年同期: 2.76億円、8.0%増) … 為替変動の影響により増加

➡ 営業利益 : 3.06億円 (前年同期: ▲1.98億円の営業損失)

(注1) 「(簡易)営業CF」は、簡便的に「営業利益」に「のれん償却額」を足し戻して算出している。



連結損益計算書の概要： 営業収益の大幅な増加により 黒字転換

(簡易) 営業キャッシュフロー：+77百万円

(簡易) 営業キャッシュフロー：+604百万円

保有投資有価証券の減損・売却損：13.44億円

	2013年3月期		2014年3月期	
	第1四半期	(参考)通期	第1四半期	前年同期比
運用資産残高(AUM)平残 (億円)	4,799	5,261	6,763	40.9%
営業収益 (百万円)	924	3,767	1,801	94.9%
営業費用・一般管理費 (百万円)	1,123	4,610	1,495	33.1%
営業利益 (百万円)	-198	-843	306	-
経常利益 (百万円)	-167	-568	300	-
当期純利益 (百万円)	-1,437	-2,203	229	-
従業員(期末) (人)	124	122	122	-1.6%
TOPIX(期末)	770	1,034	1,133	47.2%
KOSPI(期末)	1,854	2,004	1,863	0.5%

(注1) 上記表中の数字は、「前期同期比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」は、四捨五入により小数点第1位まで表示している。

(注2) 「従業員数(期末)」は、役員を含まない従業員数。なお、2013年6月末の役職員合計は、141人。

(注3) 上記表中運用資産残高は、COSMO社およびSPARX Asia社の運用資産残高を含む。なお、2013年6月末の運用資産残高は速報値ベース。

(注4) 「(簡易)営業キャッシュフロー」は、簡便的に「営業利益」に「のれん償却額」を足し戻して算出したものである。



営業収益の内訳: 日本(SAM社)を中心に、大幅な業績回復

営業収益内訳・成功報酬付AUM付帯比率

営業収益内訳	2013年3月期		2014年3月期	
	第1四半期	(参考)通期	第1四半期	前年同期比
残高報酬 (百万円)	767	3,153	1,049	36.7%
料率(手数料控除後) (%)	0.57%	0.53%	0.55%	-0.01
成功報酬 (百万円)	0	40	462	-
対AUM付帯比率 (%)	54.0%	48.9%	46.9%	-7.15
その他営業収益 (百万円)	156	573	288	84.3%
営業収益 合計 (百万円)	924	3,767	1,801	94.9%

報酬料率が比較的に高いSAM社の運用資産残高の増加が寄与。

実物資産への投資戦略に係る運用資産増を含め、報酬料率の高い運用戦略の割合が相対的に増加し、平均料率が改善。

日本株式に係る運用戦略は総じて好調であり、SAM社で成功報酬が実現。

一方、韓国市場が低調に推移したことも影響し、Cosmo社では成功報酬の計上に至らなかった。

前年度までの取組みの成果が収益に結び付いた他、複数の案件が収益に貢献した。
なお、収益に含まれる一部案件に係る手数料等が、営業費用(支払手数料45百万円)に計上されている。

(注1) 上記表中の数字は「前期比」「残高報酬・料率(手数料控除後)(%)」と「成功報酬・対AUM付帯比率(%)」を除き、単位未満を切り捨てで表示している。「前期比」については、四捨五入により小数点第1位まで表示している。なお「残高報酬・料率(手数料控除後)(%)」の「前期比」と「成功報酬・対AUM付帯比率(%)」の「対前年度比」は変化率ではなく、単純な増減幅を表示している。

(注2) 残高報酬料率(手数料控除後)=(残高報酬÷残高報酬に係る支払手数料)÷期中平均運用資産残高

(注3) 2013年6月末の数字は、速報値に基づいて算定している。



経費内訳: 事業の回復に伴う経費増あるも、慎重にコントロール

(単位: 百万円)

	2013年3月期		2014年3月期	
	第1四半期	(参考)通期	第1四半期	前年同期比
支払手数料	88	459	159	80.2%
人件費	375	1,651	668	78.4%
委託計算費	13	23	4	-67.2%
旅費交通費	29	98	43	45.8%
不動産賃借料	78	262	58	-25.1%
事務委託費	50	235	58	16.7%
減価償却費	10	42	11	8.1%
その他	201	708	191	-4.7%
のれん償却額	276	1,128	298	8.0%
営業費用・一般管理費 合計	1,123	4,610	1,495	33.1%
うち経常的経費	714	2,678	719	0.7%
(参考)年換算ベース	-	2,678	2,876	7.4%

残高報酬に連動する手数料の他、一部の案件（「その他営業収益」に計上）に係る手数料を含む。

人件費に含まれる賞与等
・前第1四半期：44百万円
・当第1四半期：317百万円
（海外子会社における特定の職員との歩合契約により、一部案件（その他営業収益）及び残高報酬に対する歩合賞与合計243百万円を含む。）

ビジネスの拡大局面に入り、国内外でマーケティング活動を積極化したことにより増加。

対ウォンで円安となり、円ベースの償却額が一部増加。
なお償却スケジュールについては、次頁参照。

(注1) 上記表中の数字は、「前期同期比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前期同期比」は、四捨五入により小数点第1位まで表示している。

(注2) 上記表中の「人件費」には、派遣社員等に関する費用も含んでいる。

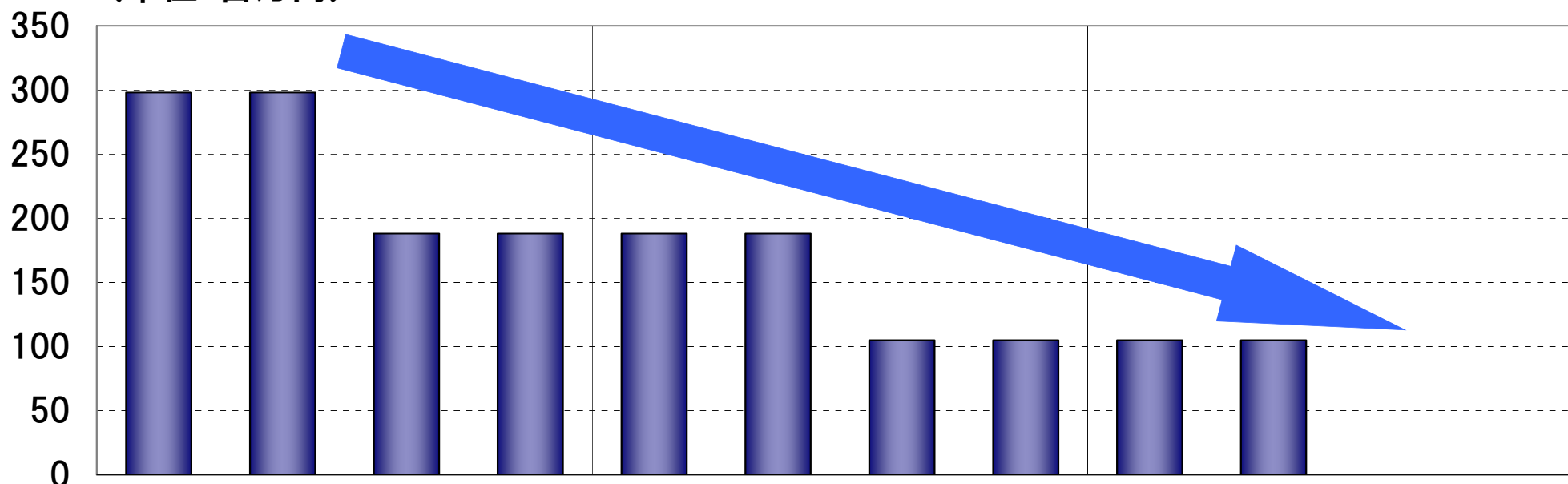
(注3) 上記とは別に、「負ののれん償却額」として、24百万円(2013年3月期第1四半期)、99百万円(2013年3月期通期)を、営業外収益にそれぞれ計上している。

(注4) 「経常的経費」とは①支払手数料全額、②実績賞与(賞与引当金繰入、会計上給与に含まれているものを一部含む)、③海外子会社の役職員に対する退職金等の一時的支払、④のれん償却費の合計を、営業費用・一般管理費の合計から控除した費用の合計を指す。



のれん償却スケジュール: 第3四半期より減少を見込む

(単位: 百万円)



2014年3月期				2015年3月期				2016年3月期			
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
298	298	188	188	188	188	105	105	105	105	—	—
972				587				211			

(注) 韓国ウォン建ののれんが含まれているため、一部為替変動の影響を受けます(上表は、韓国ウォンレート:0.088円で算定)。



基礎収益力：AUM平残の増加と過去のコスト削減効果により、基礎収益黒字が急拡大

	2013年3月期 通期	2014年3月期 (年換算ベース)
AUM平残 (億円)	5,261	6,763
残高報酬料率 (手数料控除後) (%)	0.53	0.55
残高報酬 (手数料控除後) (百万円)	2,788	3,739
経常的経費 (百万円)	2,678	2,876
基礎収益 (百万円)	+110	+862

※ 基礎収益とは、残高報酬の金額から経常的経費を差し引いた金額であり、事業の持続的かつ安定的な基盤となる収益力を示す指標として用いています。

(注1)2014年3月期(年換算ベース)の基礎収益は、第1四半期の実績が年度末まで継続したと仮定した場合の参考値。具体的には、第1四半期のAUM平均残高に(手数料控除後)残高報酬料率(年率)を乗じて算出した残高報酬から、第1四半期に発生した経常的経費を年換算(4倍)した金額を控除して算出している。

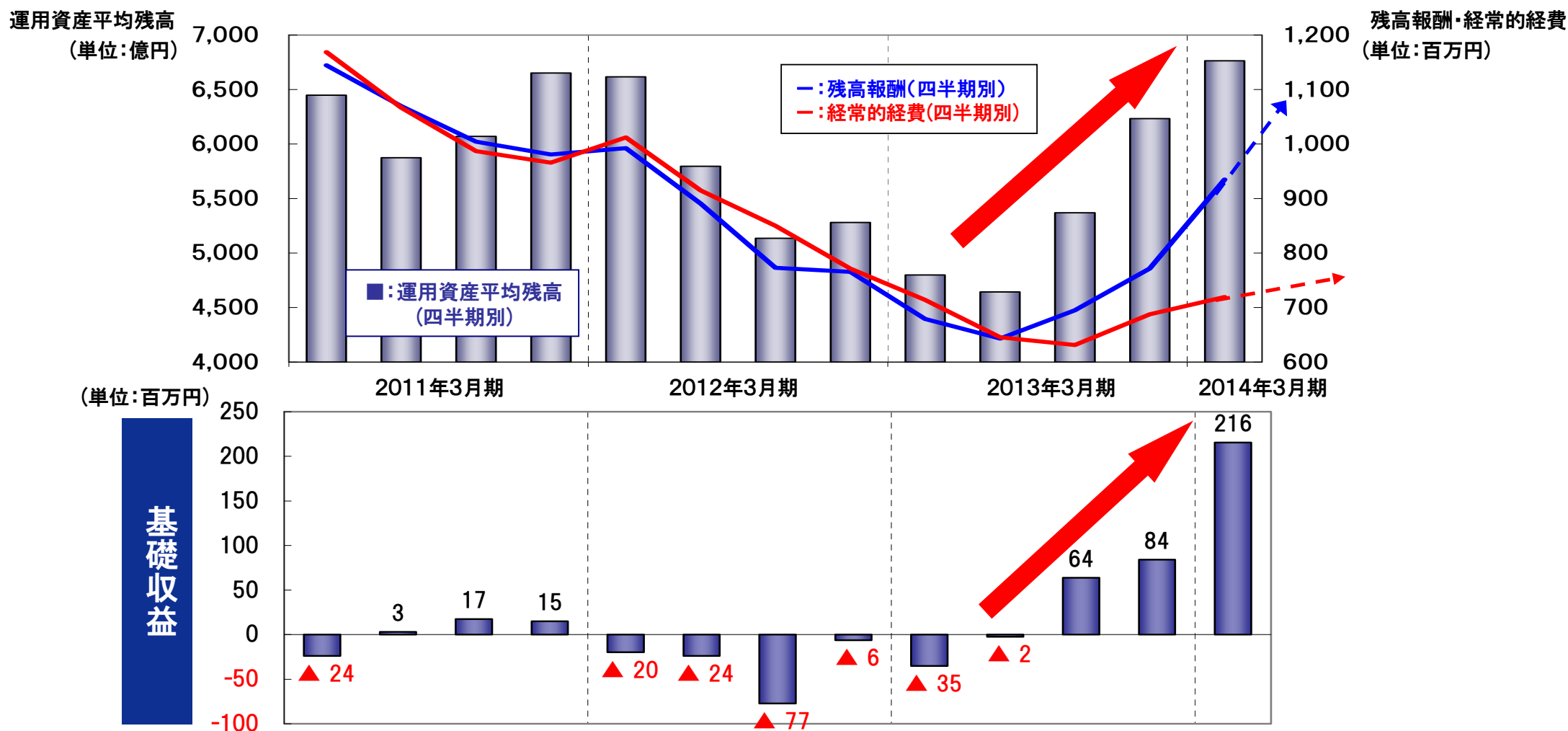
(注2)「経常的経費」とは①支払手数料全額、②実績賞与(賞与引当金繰入、会計上給与に含まれているものを一部含む)、③海外子会社の役職員に対する退職金等の一時的支払、④のれん償却費の合計を、営業費用・一般管理費の合計から控除した費用の合計を指す。

(注3)上記表中数字は単位未満を切り捨て表示している。



基礎収益力推移：損益分岐点の大幅な低下で、収益力は一気に向上

四半期ごとの推移（運用資産平均残高、残高報酬(支払手数料控除後)、経常的経費、基礎収益)

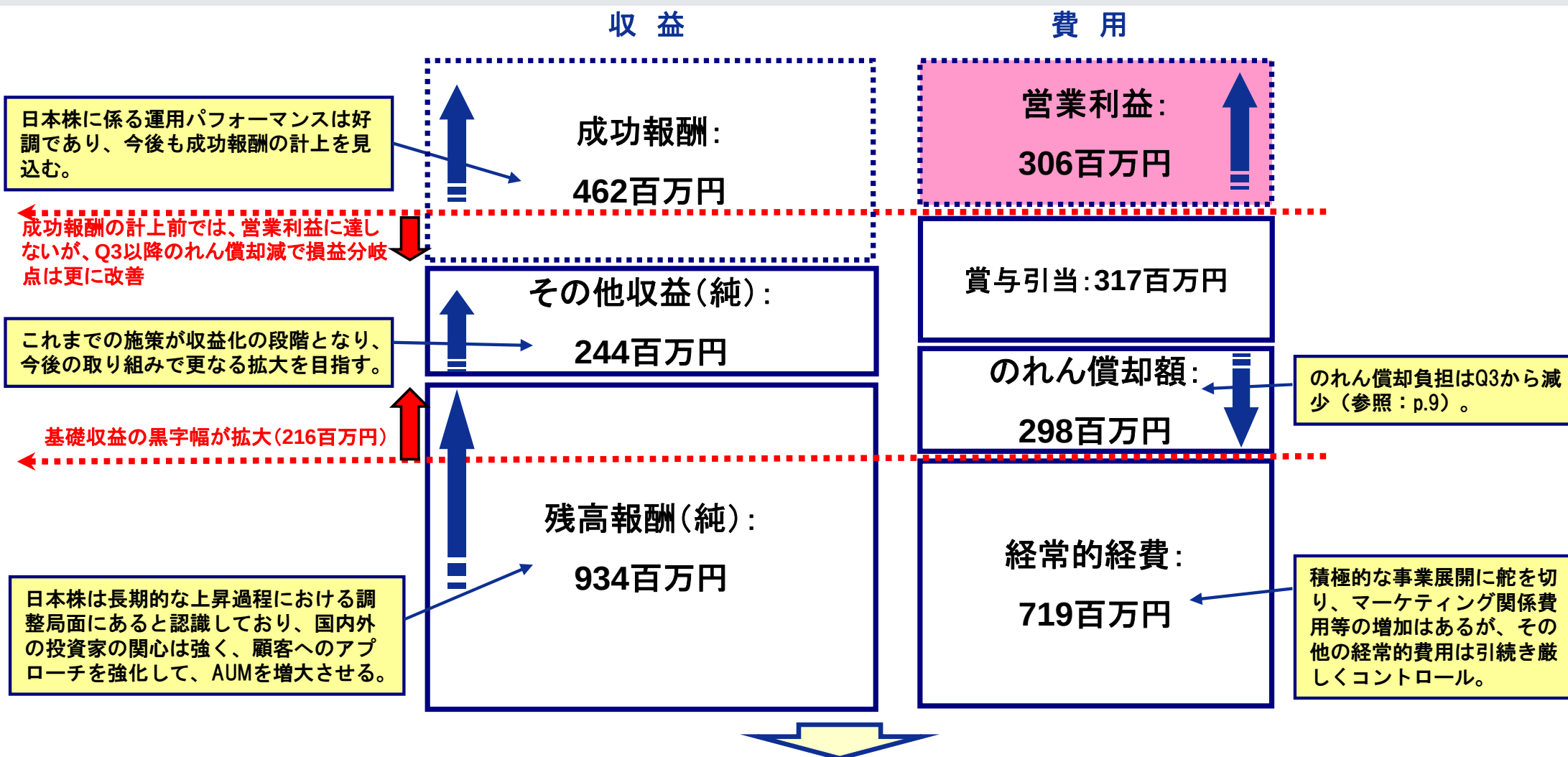


(注1) 「残高報酬(支払手数料控除後)」は概算値として、運用資産平均残高と残高報酬料率とで算出した換算値を使用している。

(注2) 「経常的経費」とは①支払手数料全額、②実績賞与(賞与引当金繰入、会計上給与に含まれているものを一部含む)、③海外子会社の役職員に対する退職金等の一時的支払、④のれん償却費の合計を、営業費用・一般管理費の合計から控除した費用の合計を指す。



第1四半期業績の分析イメージ



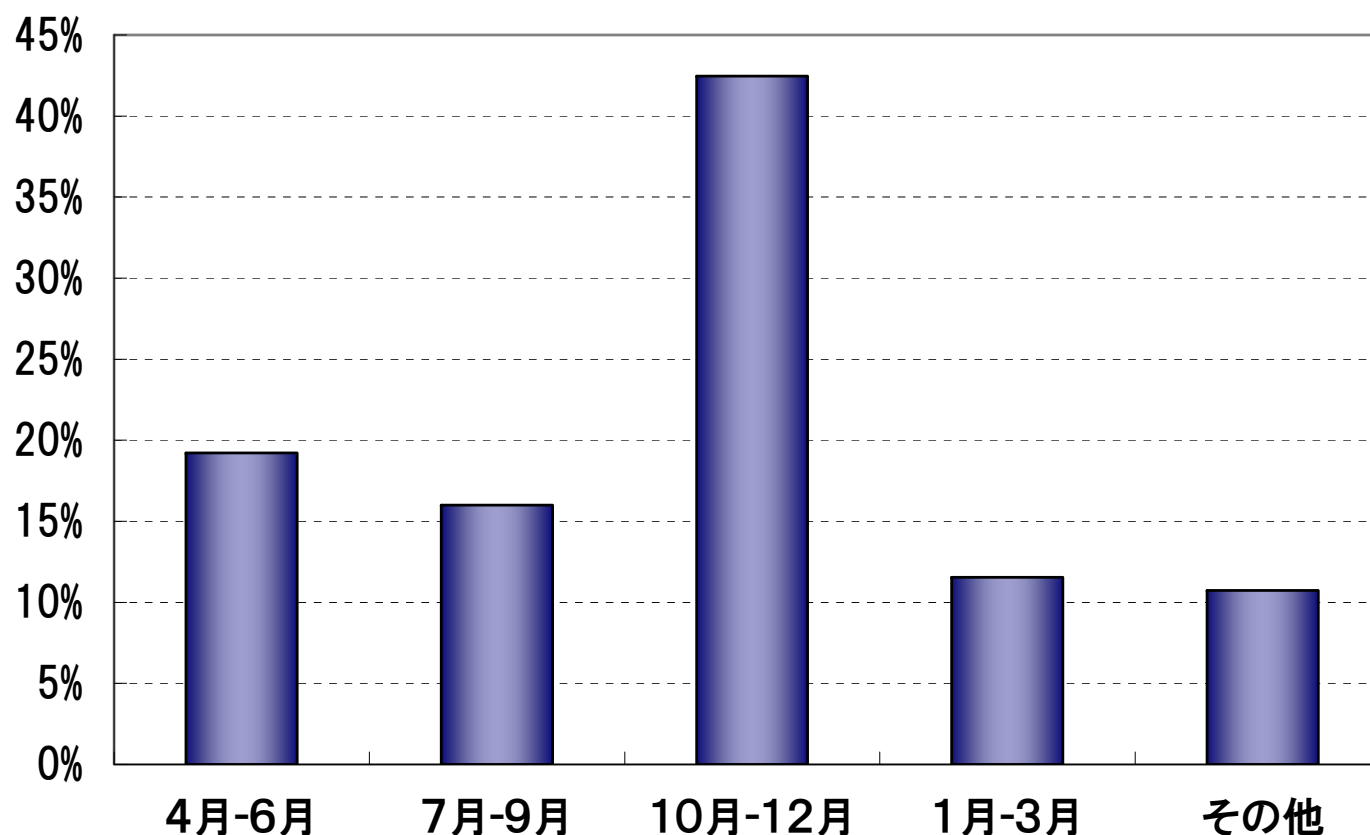
「黒字化・復配」の次の目標として、その達成のプロセスと利益の質的向上に注力

(注1)「残高報酬(純)」「その他収益(純)」は、いずれもそれぞれに関連する支払手数料を控除した数値で表記している。



(SAM社)成功報酬付ファンドー計算基準日分布状況

SAM社 成功報酬が付帯する運用資産残高の、成功報酬計算基準日の分布状況



(注1) SAM社が運用するファンド(「ファンド」とは、投資信託あるいは投資一任口座を指す。以下同様)のうち成功報酬が付帯している残高(2013年6月末)を、成功報酬の基準日および支払いが確定する月ごとに分類し、その割合をグラフ化したもの。このうち、各計算基準日において各契約に定める要件を充たした場合にのみ、成功報酬を頂くことができるものであって、今後発生する成功報酬を明示するものではない。

(注2) その際、①複数の支払時期があるファンドについては、該当ファンドの残高を各支払月に分割計上、②成功報酬がついていないファンドは、運用資産残高の合計から除外、という調整を行い、上記割合を算出している。

(注3) 上記の%表示は、少数点第1位を四捨五入して表示している。また上記の数字は、社内データによる概算値である。



2014年3月期 第1四半期決算(B/S)

▶外部負債は少額、十分な手元流動性

- ・有利子負債:15.0億円 + 未払金等:9.4億円 = 約24億円に対して、
現預金:73.4億円 + 有価証券:2.2億円 + 未収金等:9.8億円 = 約85億円と十分な水準を維持。
- ・更に、(簡便)営業キャッシュフローは、Q1で6.0億円(年換算24億円)の水準に回復。



有利子負債残高は、営業CFだけでも十分に返済可能な水準

▶自己資本は、必要運転資本を十分に賄う水準

- ・自己資本:90.6億円から、既にキャッシュアウトした「のれん」:14.4億円 と「固定資産(有価証券除く)」:6.0億円を差し引いても、70億円を超える水準。
- ・自己資本比率は高い水準を維持(前年度末67.6%⇒今期末67.9%)。



高い自己資本比率を維持 ⇒ 財務基盤は安定

+

更なる事業拡大に向けて必要であれば、最適な手法で必要資金を確保していく

(注1) 「(簡便)営業キャッシュフロー」は、簡便的に「営業利益」に「のれん償却額」を足し戻して算出している。



連結貸借対照表の概要：財務基盤の安定性は更に向上

(単位：百万円)	2013年3月	2013年6月	前期末比
流動資産	7,787	9,162	1,375
うち、現預金	5,926	7,374	1,448
うち、有価証券	408	220	▲188
うち、未収入金等	845	981	136
固定資産	5,165	4,173	▲992
うち、のれん	1,728	1,448	▲279
うち、投資有価証券	2,844	2,122	▲721
(資産の部 合計)	12,952	13,336	383
未払金等	931	941	10
社債	1,500	1,500	
(負債の部 合計)	2,921	2,979	57
資本金	12,456	12,456	-
資本剰余金	14,309	14,309	-
利益剰余金	▲14,310	▲14,081	229
自己株式	▲4,438	▲4,438	-
株主資本	8,016	8,246	229
その他有価証券評価差額金	182	188	5
為替換算調整勘定	560	626	65
少数株主持分	1,160	1,177	17
(純資産の部 合計)	10,030	10,356	325

当社グループが運用するファンドへのシードマネー一部回収の他、営業CFによる増加

今後ののれん償却
2014年3月期：972百万円
2015年3月期：587百万円
2016年3月期：211百万円

利率：1.15%
2014年9月満期

自己資本比率
2013年3月：67.6%
2013年6月：67.9%

円安、日本株式市場の環境好転により、前年度末比でやや改善

株主資本／純資産が増加

(注1) 上記表中の数字は、単位未満を切り捨てて表示している。

(注2) 投資有価証券は、当社グループが運用するファンドへのシードマネーを含む。



課題と取組み

これまでの取組みと市場の追い風で、業績回復は明確であるが、

- ①積極的な事業展開に舵を切りつつあることから、(コントロールしつつも)コストは増加のトレンドに
- ②実物資産への投資ビジネスは、更なる拡大に向けて体制整備等の局面に
- ③日本株運用ビジネスは運用成績良好であるが、運用資産の新規設定スピードが想定より遅い



<トップライン(収入)の拡大と多様化により、SPARX復活をより確かなものとする>

- ・トップ(阿部)を中心に、海外投資家へのアプローチを一層強化し、大口資金導入を図る。
- ・良好な運用成績／老舗としての実績とブランド／高品質のオペレーション／公開企業としての透明性⇒SPARXの長所を改めて国内投資家に訴求し、運用資産を積み上げる。
- ・新たな投資戦略の提案(Value Enhancement型ファンド、改良型LongShort戦略など)。
- ・インフラファンド／不動産ファンドの立上げ成功を、更なる拡大・多様化へ展開。
- ・(近い将来の飛躍を期して)韓国／香港での運用実績の積み重ねと商品多様化。



ビジネスの進捗状況と今後の施策



Equity Investment – (1)

▶日本株式運用ビジネスの復活

- ・中小型／長期厳選投資戦略等、比較的良好な中長期の運用成績について、調査会社等の各種awardsを受賞。

<http://www.sparx.jp/press/uploads/pressJ201300708-01.pdf>

- ・ロング・ショート戦略についても、好調な直近の運用成績によって、3年程度の運用成績でも競合他社比で優位に。

- ・海外顧客へのマーケティング活動をより積極化している他、国内においても新規の公募投信を久々に設定。

<http://www.sparx.jp/press/uploads/pressJ201300708-02.pdf>

⇒現時点においても引き続き、基準価額が、成功報酬が生じる基準となるHWM(ハイウォーターマーク)を上回るファンドが相当に存在することから、Q2以降も成功報酬の計上を見込む。

⇒年初からのマーケティング活動の成果を、下期には1つずつ具体化していくことで、運用資産残高を積み上げる。

⇒今後も、当社グループの投資哲学(“マクロはミクロの集積である”)と投資手法(“ボトムアップ・リサーチ&カタリスト”)の有効性を、良好かつ長期の運用成績によって実証していくことで、中長期的な競争優位を再確立する。



Equity Investment – (2)

▶ Value Enhancement Investment

・昨年度、日本ペイント株式会社(証券コード:4612、東証・大証・名証各第一部)に対する大規模な投資及び中長期的な企業価値向上を目指す投資家に対して、アドバイザリー業務を提供。

<http://www.sparx.jp/press/uploads/pressJ20130122-01.pdf>

⇒この経験を生かし、過去に運用実績のある「株主として投資対象企業の経営陣との対話を通じて企業価値向上を実現し、長期的な投資リターンを得る『バリューエンハンスメント投資戦略』」を、再度立ち上げることにチャレンジ。

⇒海外マーケティング活動の中で、日本企業に対する海外投資家の強い投資ニーズを確認。年度内には具体的な組成に。

▶ OneAsia株式運用能力の展開

・One Asia L/Sの運用実績が蓄積、運用成績は引き続き好調を維持

⇒海外マーケティング活動の中で、海外投資家の潜在的な投資ニーズを確認。外部のマーケティング・チャネルの利用等を含め、当社グループの体制を整えつつ、新規設定によるAUM増加を目指す。



Real Asset Investment – (1)

▶インフラファンド

- ・東京都の官民連携インフラ・ファンドは、2013年7月末で募集終了（出資額合計88億円）。
- ・順次、大規模太陽光発電所への投資案件を実行しており、ファンドの投資対象である再生可能エネルギー発電施設の総事業規模は、最終的には300億円程度に。

⇒上記経験・知見を活かし、2号ファンドの組成を関係者と検討開始。合わせて海外投資家からの投資ニーズを具体化する作業も並行して実行中。

⇒投資対象としては太陽光発電所に加えて、風力発電所への投資も検討。

⇒上場インフラファンド組成の可能性。

＜参考＞日本取引所グループ中期経営計画（平成25年3月26日発表）

「2015年度までに、アジア他市場に対する競争基盤として”上場インフラ市場の制度整備と上場の実現”を図る」



Real Asset Investment – (2)

▶不動産ファンド

- ・総資産額は、304億円にまで増加(2013/6末)。
- ・さらに海外投資家の追加コミットメントを受け、総資産額400億円(運用期間5年)まで(レジデンシャル)資産を取得予定。

⇒日本の不動産に対する他の海外投資家のニーズを確認。今後は、具体的な投資スキームの提案・組成に。

▶復興ファンド

- ・1号ファンド(仙台市名取 314室。総資産規模11億円)、2号ファンド(大崎市三本木 545室、東松島市矢本 455室。総資産規模合計36億円)が投資する宿泊施設は、共に予定通り営業を開始。

⇒当該宿泊施設の認知度の上昇、遅れている復興事業の進展に伴い、稼働率の更なる上昇を見込む。

⇒今後は、当該2ファンドにおいて当社グループに期待される投資家対応サービスの充実に注力。



参考資料

スパークス・アセット社 主要投資戦略 計測開始日 来リターン



(年率換算)

(コンポジット計測開始日～2013年6月末)

	日本株式 一般(合同口)	日本株式 中小型	日本株式 ロング・ショート (円建、Lev.1)	日本株式 集中投資
コンポジット	8.63%	4.99%	3.66%	6.90%
参考インデックス値	-0.12%	2.12%	-0.76%	-0.15%
超過リターン	8.75%	2.87%	4.41%	7.05%

参考インデックス	TOPIX配当込	ラッセル野村日本株スタイル インデックス・ミッド・アクト・ス モール	TOPIX配当込	TOPIX配当込
計測開始日	1997年5月	2000年1月	2000年6月	1999年7月
コンポジット・リターン のボラティリティ (年率)	22.50%	18.74%	7.70%	21.52%

(注1) 上記表中の数字は、スパークス・アセット社で運用する主要な投資戦略のコンポジット・リターンを社内資料に基づいて作成している。表中の「参考インデックス」とは、相対比較のために便宜的に採用した指標であり、顧客から要請されているベンチマークとは限らない。

(注2) リターン算出基準は次の通り。「日本株式一般」「日本株式中小型」「集中投資」については、修正ディーツ法・運用関連手数料控除前、「ロング・ショート (円建、Lev1)」は基準価格法・運用手数料控除後。また、上記数字は四捨五入により小数点第1位まで表示している。

(出所) スパークス・グループ (2013年6月末現在)



スパークス・アセット社 コンポジット算出に関する追記

- 各コンポジットはSPARXグループのグループ会社(ただし、COSMO社、SPARX Asia社を除く)が運用するポートフォリオを対象としている。
- 今回提示した各コンポジットの投資戦略の内容は以下の通りである。

コンポジットの名称	投資戦略の内容
日本株式一般(合同口)	合同運用を行う、日本の全上場・公開銘柄を投資対象とするアクティブ投資戦略
日本株式中小型	日本の中・小型株を主要投資対象とする投資戦略
日本株式ロング・ショート (円建、Lev1)	日本株に対するロング・ポジションとショートポジションの合計を純資産の1倍の範囲内として安定した絶対リターンを追求するロング・ショート投資戦略
日本株式集中投資	少数銘柄の日本株式に集中的に投資する投資戦略

3. リターンに関する追加情報(過去5年の年度別リターン)

	2009年3月期	2010年3月期	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期
日本株式一般(合同口)	-34.48%	34.27%	-5.74%	3.54%	33.69%
日本株式一般(TOPIX-Benchmark)	-34.78%	28.47%	-9.23%	0.59%	23.82%
日本株式中小型	-25.64%	33.32%	-1.87%	8.80%	26.48%
日本株式中小型(RNMS-Benchmark)	-31.00%	29.14%	-7.52%	1.92%	22.26%
日本株式L/S(円建、Lev1)	-4.13%	6.03%	4.00%	-8.29%	17.24%
日本株式L/S(TOPIX-Benchmark)	-34.78%	28.47%	-9.23%	0.59%	23.82%
日本株式集中投資	-25.67%	23.14%	-1.76%	5.71%	30.31%
日本株式集中(TOPIX-Benchmark)	-34.78%	28.47%	-9.23%	0.59%	23.82%



この資料は、スパークス・グループ株式会社の株主および関心を有する方への情報提供のみを目的として作成したものであり、当社の株式またはその他の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・グループ株式会社もその関連会社も、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述(これらは未監査のものです)の正確性、完全性、妥当性等を保証するものでなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれら依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。過去の実績値は将来のパフォーマンスを示唆または保証するものではありません。

この資料には、スパークス・グループ株式会社(連結子会社を含む)の見通し、目標、計画、戦略などの将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、スパークス・グループ株式会社が現在入手している情報に基づく判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、将来におけるスパークス・グループ株式会社の実際の業績または展開と大きく異なる可能性があります。なお、上記の不確定性および変動可能性を有する要素は多数あります。以上の不確実性および変動要素全般に関する追加情報については、当社の有価証券報告書をご参照ください。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。この資料の著作権はスパークス・グループ株式会社に属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用、複製、配布、送信することを禁じます。

スパークス・アセット・マネジメント株式会社(スパークス・グループ株式会社の100%子会社)は、グローバル投資パフォーマンス基準(GIPS®)に準拠して本資料の関係部分を作成し提示しています。準拠主体である会社はスパークス・アセット・マネジメント株式会社及び SPARX Overseas Ltd. で構成されます。スパークス・アセット・マネジメント株式会社は、日本において投資運用業、投資助言・代理業、第一種及び第二種金融商品取引業等を行う金融商品取引業者として登録されています。

スパークス・グループ株式会社

郵便番号140-0002
東京都品川区東品川2-2-4 天王洲ファーストタワー16F

Tel: 03-6711-9100 (代)